

地域環境ジュニアパトロール
活動報告書

グループ名	ナチュラル ・ファンタジー
-------	------------------

テーマ	上志比村のゴミ問題を考えよう
-----	----------------

メンバーの氏名	学 校 名	学 年
奥出 はづき	上志比村上志比小学校	6 年
山田 祐子	上志比村上志比小学校	6 年
島田 陽子	上志比村上志比小学校	6 年
鈴木 知佳	上志比村上志比小学校	6 年
酒井 宏枝	上志比村上志比小学校	6 年
浅野 奈津子	上志比村上志比小学校	6 年
指導者氏名	川治 芳子	教 職 員

1、テーマを選んだ理由

○何を買っても包装紙がいっぱいで、1日でも家にゴミがたくさんたまる。

○上志比村には、自然がいっぱいあって、ゴミなんかどこに捨ててもいいと思っている人が多いのではないか。

○資源回収にゴミみたいなものを平気で出す人がある。

○道路わきなど、どこでもゴミ燃やしをして、後始末をしてない。

○川に、缶や瓶が落ちている。

など、自分たちの環境をもっときれいにしようという気持ちがうすいように思われるみんなで、家のゴミをどのように処理しているか調べてみよう。

2、活動の記録

・7月28日 —— 活動日程の作成 ——

いつ、どこへ行って、何を、調べるか。

準備していくこと、持っていく物、家の人への連絡。

相談の結果 ①家庭のゴミの始末のしかたを調べる。

②ゴミクリーンコンポストの設置・利用状況を調べる。

③九頭竜川岸のゴミ、清水区を流れる河内川のゴミを調べる。

④山王駅前の店周辺のゴミを調べる。

・8月7日 —— 活動第一日 ——

1時30分、学校出発。きょうは、FBC福井テレビの人が来られてびっくり。

①栗住波区をまわってみる。

畑と道路との間の空き地に、ゴミ燃やしをした跡があった。あとで分かったことだが、地区のあちこちにこんな場所が何箇所もある。

近所3～4軒かの共同ゴミ燃やし場らしい。5m四方位の広さに、灰や燃え残しが散らばっている。特別じゃまになるところでもないし、人目にもつきにくい所だから・・・と、気軽にやっているのだろう。

電柱のまわりに、いろんなゴミ袋がかためて置いてある。よく見ると、網のかこ

いがある、ゴミ集積場になっているのだが、かこいの中に入れてないのがたくさんある。缶や金くずや陶器の混じった袋もあった。

②グループ員、山田さんの家に行ってみる。(突然のおじゃま)

家のうしろの畑の中にクリーンコンポストが置いてある。グループ員の1人が見つけて、山田さんのお母さんに中を見せてもらい、いろいろ尋ねた。6人中、2人しかクリーンコンポストのことをしらなかった。知っていたという2人も、コンポストの仕組みは知らなかった。

福井テレビの方が、畑の隣の小屋の中に、すばらしい物を見つけた。ダンボールの箱が3つ、ゴミ袋をしいた中にスチール缶・アルミ缶・びん を区別して入れてある。山田さんのお母さんは、しきりに恥ずかしがられるが、みんなはとても感心して見せてもらった。「こうして分けしてみたが、あと、どうしたらよいか困っているのですよ」という。(後ほど、8月26日より上志比村でも、空き缶・あきびんのリサイクル回収を始めることを知って、みんなもほっとする。)

山田さんの家の前を流れている川の淵に、ドラム缶で作ったゴミ燃やし場があった。水の近くで、うまく考えたものだと、ここでも感心する。

・ 8月20日 —— 活動第二日 ——

①村内のクリーンコンポスト設置状況を調べよう。

住宅地図を持って、一軒一軒、家のまわりを見て歩き、クリーンコンポストのある家にしるしをつける。1地区をまわるだけでも、なかなか大変だ。

市右エ門島33軒中18軒、大野島17軒中11軒、この2地区では、設置率、58%。あとは、自分の地区について、調べておくことにする。

②共同ゴミ集積場の様子を調べよう。

市右エ門島区2か所のゴミ集積場を見る。かなり広い場所に大きな金網のかごが置いてあるが、中に入れてあるのより、外にある物の方が多い。よく見ると、『かごの中に入れて下さい』と書いたはり紙がしてある。どうしてだろうと、みんなは首をかしげながら、自分たちも大いに反省した。

・ 8月24日 —— 活動第三日 ——

学校・村民グラウンド・児童館・老人センターのまわりのゴミ拾いをする。

各自が、買物袋を手に、燃えるゴミを集める人と、燃えないゴミを集める人に分かれて拾って歩いた。溝の中に、何年もたったと思われる缶や瓶があった。気持ちの悪い思いをしながら、1時間30分余りかかった。

大きいゴミ袋に集めたら、燃えるゴミ3袋、燃えないゴミ2袋になった。

・ 8月25日 —— 活動第四日 ——

九頭竜川原を歩く。九頭竜川に、鮎釣りに来る客が多い季節になった。どうしても、川原にゴミをして行く。川原がきたないと言うグループ員の証言で、きょうは大野島から北島までの（約4キロ）九頭竜川原を歩くことにする。各自、前日と同じように買物袋を手に、燃えるゴミを集める人と、燃えないゴミを集める人に分かれて拾いながら、鮎釣り客の様子を見て歩いた。

鮎釣り客が休憩に使うらしい場所には、沢山の弁当箱の空や、食べあとが残っており、ゴミ燃やしをした跡もあった。川岸に餌用のソーセージのかわがよく落ちていた。途中まで、用務員さんに車で取りに来てもらって、大きいゴミ袋に集めたら燃えるゴミ4袋、燃えないゴミ2袋になった。

・ 9月3日 —— 活動記録の整理 ——

パトロール手帳を整理し、反省会をした。

計画では、村内全部のクリーンコンポスト設置状況をまとめて、表にする予定だったができなかった。また、家庭から出るゴミの量を、何かの形で調べようと考えていたが、自分の家について2週間の記録をとっただけに終わった。

また、山王駅前の店周辺のゴミを調べる予定だったのが、村の夏祭りのことと関係して、公共施設周辺のゴミを拾ってほしいとの要望で、変更した。



今日のパトロールの反省
今日ばかりうまでいって、いけん
なごみとわけてきました。
びくりにしたのはあゆみさんが残
こしていった、ぐんとうの【鐘】から
や、ミューズのかん、そしてあゆみ
に、かんけいのあまるのかかり、市
、市とすごそありました。わたしは、
それとみて、わたしは、も、と、と、と、と、
みどりにつつめられていて、かゆら
さんいと思、こいたのに、と、と、
きたはかたから、か、かりました。



==パトロール 日記より==

— 祐子ちゃんの家 —

- ・ミゴミなどとは畑の中にあるゴミをいすてて野菜の肥料としている
- ・昔、せんなどとはいろいろな種類に分けて捨てる物はリサイクルに出している
- ・となりの家といっしょにドラム缶で燃やすゴミを燃やしている

清水 - 祐子ちゃんの家

- ・ひん、アルミカ、スチールカときちん
と分けてあった。
- ・回収する時出しやすいように
してあった。
- ・なせアルミカとスチールカと2
種類あるのが、どちらかに
してしまえば家で分けておくに
も回収するにもやりやすい。

- ・生ゴミはコンポストに入れてたまったら、土の中にうめてくさらせ、土の肥料にする。
- ・私達が食べ残した生ゴミを野菜の肥料する。そうするとまた、野菜ができる。そして、また、生ゴミができて——、というふうに、続く。考えてみると、不思議なことだ。

《クリーンエポス》

- 特に、畑の中にあつた、地区の中の籾以上は
コンポストを持って、ほとんど緑色だ
た。この前のパトロールで祐子ち
んの家のコンポストを見にいら
た。いいかい、家のけんかん付近
にはおいでではなかつた。

⑦ コンクリートの養生

- びくりにした。100%
。いし、ふつふつとくわくして
わける。

＜協同コン置き場＞

- ・「カジ」の中に入れて下されと書いてあるのにカジのタビに入れてあった。
- ・1人1人「カワカ」でも気をつけてゴミの置く所を考えれば他の人たちも気持ちよく出せ、とりにくる人たちも、仕事かしやすい。

《学校集団のごみ拾い》

(小學校のグラウンドと村民グラウンド)

〈ごみ拾いをして〉

- 思っていたより、あきか、いへ、みか、
 たくさん落ちていて、拾うのが、
 大変だった。みそに落ちていたりも
 してきたなくて、始めは拾うのか
 とってもいやだった。あつくて、あせが
 たらたらと出て、気持ちが悪く、
 スカートにどろまでついてしま
 った。ゴミぶくろは、カンヤゴミで、
 すく、い、はいにな、てしま、た。
 それだけ、私達が、カンヤゴミを
 拾っているのにな、と思うと、拾
 うのか、当たり前のような気が
 する。ゴミを拾、てないよう、みんな
 が、努力、して、ほしい。

- たくさんのゴミが、あ、た。
●よくたくさんあ、たのは、ちゅうゴミ、じ
えな、いゴミに、た、った。分類するど
ち、火のかす、あ、かしの、ぶ、く、す、な、ど、ち、ど
ち、を、い、い、ゴミは、あ、さ、か、ん、か、い、
たくさんあ、った。

＜ゴミ拾いをした感想＞

- 思っていたより、サ、こうたくさんある。下の
で、おとろいた。どぶの中や、草のかけらな
い。見つけない所にたくさん置いてあ
た。自分におかしや=ユースを飲んだ
ゴミを見つかり、おこられないように、見つ
かりにくい所にかくしたりしたことがあ
たので、これから、ゴミはちゃんと自分
の家まで持て帰るようにしようと思った。
P.S. 赤い時、早く死にたい。E. P. (笑)

く九頭竜川の川原のゴミ拾い

- ・魚つりをした後だと思われる魚のえさ、空き缶、弁当の空き箱や包紙、いろいろな物がずててあった。このごろみんな平気で物をずてています。当たり前のようにして、ずてているゴミは、たれが拾っているのだろうか。
- ・ゴミ拾いは、とてもつかれる。今パトロールで、ゴミ拾いをして、ゴミをずてないようにしようと思、た。
- ・ゴミが、川に流れると、魚がえさとまちがえて、食べてしまう、とがあるそうだ！

3. メンバーの感想(一人づつ書いてください)

浅野 奈津子

はじめは、何をやるのかとよく心配して、たけど、ゴミのことで、いろんな所へ行けて楽しかったです。ジュニアパトロールに入る前は、ゴミのことなんかぜんぜん知らなかったけど、入ってから、どんな所にどんなゴミが捨ててあるかなど、よく分かりました。

ジュニアパトロールに入ってもよかったです。たなあと感じました。

これから、どこにでもゴミを捨てないで、ちゃんとゴミはここに捨てるようにしたいです。今度は、ゴミをたけじゃなくて、いろいろなことを調べてみたいなあと思いました。

山田 祐子

いろんなことがたくさんわかったの、でよかったです。ごみの(しり)の大セカイがわかりました。

島田 陽子

いろいろなごみの捨て方がよくわかった。みんなで協力して、紙パックなどでみんなにやくたつ物をつくりたい。

鈴木 知佳

私は、校庭や川原のゴミ拾い、もえるゴミ、生ゴミ、缶やビンなどの後始末について調べました。ゴミを平気で捨てていたり、缶とビンを区別していない人もいました。私はこんなことをしていないかなあと考えたりもしました。このパトロールのおかげでいろいろなことを学びました。

奥出 はづき

私は、はじめ、やめた方がいいかなと思いましたが、けれど、今ジュニアパトロールに参加して、すばらしいこと、そして、はいてよかったなあと思います。わけは、わからないにみゆまつのこと、私たち、どれだけごみをたてていると、そして、地球にやさしいリサイクルをしていることなど、したから、これから地球にやさしい

酒井 宏枝

最初は、「Tシャツがもらえるから」という理由で入りました。それから最初のうちは、「Tシャツはタサイし、めんどーだし、やっぱり入らなげえ良か、たな」と思っていました。けど、他のこともたくさんしているうちに、いろいろな事が勉強できたので、今では、「入って良か、たな」と思っています。

これから……

ゴミは、ゴミ箱に、缶はスチール缶とアルミ缶とに分けて、集めにくる人たちがやりやすいように、この上志比村にゴミが落ちていないようにしたいです。そのため、私から落ちていたゴミがあつたら、ゴミ箱にすてられるようになりたいです。

ジュニアパトロールに入ってから、わかったことや勉強できたことは、たくさんあります。それを全部まとめると、昔とは、ずいぶんちがって、「みんな」が、たくさん、ふえたんだなあ、ということがわかりました。紙パックや缶など、は、また再生できるので、もっと再生紙などを使ったほうがいいと思う。今後、やりたいことは、川の水がきれいかどうか

4. 指導者の感想

「やりたい」と集まったメンバーだが、環境パトロールの意義は充分わからせられたか疑問である。暑い中、汗ばくでやったゴミ拾いに、閉口した様子だったか。村内のいつも目には見えない、歩いたことのない所と歩きまわったことで、いろいろの発見をしたことは、大きな収穫であった。

